

地区概況及び公共交通の現状・ニーズ（市街地エリア）

地区概況

- 市の北東に位置し、地区人口 49,571 人、総人口の 85.1%を占める。（令和 5 年 1 月現住人口）
- 年少人口・生産年齢人口は減少し、老年人口は増加しており、令和 3 年度の日向市全体の高齢化率は約 33.5%と、今後も高齢化が進行することがうかがえる。（令和 3 年 10 月住民基本台帳）
- 人口減少・少子高齢化が進展している中で、世帯数は反対に増加傾向にある。高齢者独居世帯（65 歳以上）は、市全体で 7,607 人が該当し、うち市街地エリアは 6,150 人である。（令和 2 年国勢調査）
- 世帯で見た自家用車所有率は 81.5%（自分専用 67.4%）であり、自家用車を持っていない方は 17.1%である。（市民アンケート調査）

■市街地エリアの自家用車所有状況

自家用車所有状況	割合 (%)
自分専用の自動車がある	67.4
家族共用の自動車がある	14.1
持っていない	17.1
無回答	1.3

都市機能立地状況

《主な施設》

- 商業施設・・・メルクス日向店、イオンタウン日向、マルイチ大王店・江良店、トライアル日向店・日知屋店、コープみやざき財光寺店、財光寺ショッピングセンター
- 医療施設・・・千代田病院、日向病院、和田病院、
- 公共施設・・・日向市役所、日向警察署、日向郵便局、大王谷コミュニティセンター、中央公民館、日知屋公民館、細島公民館
- 教育施設・・・日向高校、富島高校、日向看護高専、日向中、富島中、財光寺中

公共交通

- JR 日豊本線（日向市駅、財光寺駅）
- 高速バス
- 路線バス（イオンタウン日向発着系統）
- ぷらっとバス（全ルート）
- 南部ぷらっとバス
- 乗合タクシーほそしま

主な行き先

順位	商業施設		医療施設	
	施設名	回数	施設名	回数
1	マルイチ	198	千代田病院	85
2	トライアル	118	日向病院	29
3	イオン	78	和田病院	28
4	コスモス	28	今給黎医院	24
5	COOP	21	吉田クリニック、尾崎眼科	15

市内公共交通の利用状況

路線バス

○路線バス利用率：市街地エリア 7.4%（市内総数 8.3%）

利用頻度	割合 (%)
週に1日以上	0.8
月に1日以上	1.6
年に数回程度	5.0
路線バスは利用しない	80.0
その他	2.1
無回答	9.5

市民バス

○市民バス利用率：ぷらっとバス 10.1%、南部ぷらっとバス 0.4%、乗合バスとうごう・乗合タクシーほそしま 0.1%

利用頻度	割合 (%)
週に5日以上	0.4
週に3~4日	9.3
週に1~2日	1.7
月に2~3日	0.2
月に1日程度	73.8
年に数回程度	14.6
市民バスは利用しない	0.1
無回答	13.0

○市民バス利用者の頻度：「週に1日以上」8.6%、「月に1日以上」31.7%（週に1日以上含む）

利用頻度	割合 (%)
週に5日以上	4.8
週に3~4日	3.8
週に1~2日	13.5
月に2~3日	9.6
月に1日程度	47.1
年に数回程度	21.2
その他	0.0

取り組む方向性

○「自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき」42.8%

意見	割合 (%)
大半の人が自家用車で移動できるので、公共交通は必要ないと考えて	2.6
沿線の人口の推移や利用状況により、路線の廃止や運行本数の減便を行い、財政負担を減らしていくべき	7.9
現状と同程度の財政負担の中で、運行の効率化等やれることに取り組み、可能な限り公共交通の維持に努めるべき	30.3
自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき	44.0
その他	3.7
無回答	11.5

効果的な利用促進策

○「行きたい場所を通るバス路線の設定」35.3%、「増便や運行時間帯の拡大」29.9%、「1回の利用でワンコイン、共通乗車券等のわかりやすい運賃の設定」28.1%

施策	割合 (%)
増便や運行時間帯の拡大	29.9
発車時刻を一定にするなど、分かりやすいダイヤの設定	15.5
行きたい場所を通るバス路線の設定	35.3
車両のバリアフリー化や小型化	22.3
市内全域における鉄道、路線バス（宮交バス）、市民バス等の乗継ぎのしやすさ	20.3
1回の利用でワンコイン、共通乗車券等のわかりやすい運賃の設定	28.1
鉄道や路線バス（宮交バス）、市民バスにおけるICカードの導入	5.3
すべての交通手段のルートや時刻表等が記載されたマップ等の配布	12.8
パソコン・スマートフォン等への時刻表、乗継情報等の提供	9.4
観光施設や商業施設等と連携した公共交通割引チケット等の発行	9.3
公共交通に関する意識向上を育むための懇談会や勉強会の開催	1.6
バスの試乗会やお試しいっぱい等の開催	6.5
駅やバス停の待合環境（ベンチ、屋根の設置等）の改善	14.0
駅やバス停の分かりやすい運行情報案内（時刻表、系統図等）	17.1
その他	2.4

計画課題

- 高齢化の進展に伴う高齢者等の移動手手段の確保
- 市街地エリア・南部エリア・東郷エリアをつなぐ拠点幹線軸の維持・強化
- 地域の実情に応じた新たな公共交通サービスの構築
- 各公共交通機関の相互連携による利便性の向上（MaaSの推進）
- 交流人口の拡大に向けた観光二次交通等の整備

地区概況及び公共交通の現状・ニーズ（南部エリア）

地区概況

- 市の西部に位置し、地区人口 5,906 人、総人口の 10.1%を占める。(令和 5 年 1 月現住人口)
- 年少人口・生産年齢人口は減少し、老年人口は増加しており、令和 3 年度の日向市全体の高齢化率は約 33.5%と、今後も高齢化が進行することがうかがえる。(令和 3 年 10 月住民基本台帳)
- 人口減少・少子高齢化が進展している中で、世帯数は反対に増加傾向にある。高齢者独居世帯（65 歳以上）は、市全体で 7,607 人が該当し、うち南部エリアは 756 人である。(令和 2 年国勢調査)
- 世帯で見た自家用車所有率は 84.5%（自分専用 76.2%）であり、自家用車を持っていない方は 14.3%である。(市民アンケート調査)

■南部エリアの自家用車所有状況

自家用車所有状況	割合 (%)
自分専用の自動車がある	76.2
家族共有の自動車がある	8.3
持っていない	14.3
無回答	1.2

都市機能立地状況

「主な施設」

- 商業施設・・・ステアーズ・オブ・ザ・シー、道の駅日向
- 医療施設・・・渡辺産婦人科、三股病院
- 公共施設・・・南日向公民館・岩脇支所、岩脇郵便局、美々津公民館・美々津支所、美々津郵便局
- 教育施設・・・宮崎県立日向工業高校、平岩小中学校、美々津小学校、美々津中学校、寺迫小学校

公共交通

○JR 日豊本線（南日向駅、美々津駅） ○南部ぷらっとバス ○乗合バスなんぶ

主な行き先

	商業施設		医療施設	
1	マルイチ	22	千代田病院、三股病院	7
2	トライアル	8	和田病院	4
3	COOP、イオン	6	尾崎眼科	3
4	A コープ	4	県立延岡病院、天生堂医院	2

市内公共交通の利用状況

路線バス

○路線バス利用率：南部エリア 14.4%（市内総数 8.3%）

利用頻度	総数 (N=1,081)	南部エリア (N=84)
週に1日以上	2.5	3.6
月に1日以上	0.8	6.0
年に数回程度	5.0	4.8
路線バスは利用しない	80.0	76.2
その他	2.1	9.5
無回答	9.5	9.5

市民バス

○市民バス利用率：ぷらっとバス 8.3%、南部ぷらっとバス 14.3%

利用頻度	総数 (N=1,081)	南部エリア (N=84)
ぷらっとバス	9.3	8.3
南部ぷらっとバス	1.7	14.3
乗合バスなんぶ	0.2	0.0
乗合バスとうごう	73.8	57.1
乗合タクシーほそしま	14.6	20.2
市民バスは利用しない	0.4	0.0
無回答	0.0	0.0

○市民バス利用者の頻度：「週に1日以上」36.4%、「月に1日以上」68.2%（週に1日以上含む）

利用頻度	南部エリア (N=22)
週に5日以上	0.0
週に3~4日	18.2
週に1~2日	18.2
月に2~3日	9.1
月に1日程度	22.7
年に数回程度	31.8
その他	0.0

取り組む方向性

○「自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき」53.6%

意見	総数 (N=1,081)	南部エリア (N=84)
大半の人が自家用車で移動できるので、公共交通は必要ないとする	2.6	4.8
沿線の人口の推移や利用状況により、路線の廃止や運行本数の減便を行い、財政負担を減らしていくべき	7.9	6.0
現状と同程度の財政負担の中で、運行の効率化等やれることに取り組み、可能な限り公共交通の維持に努めるべき	30.3	22.6
自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき	44.0	53.6
その他	3.7	3.6
無回答	11.5	9.5

効果的な利用促進策

○「増便や運行時間帯の拡大」47.6%、「行きたい場所を通るバス路線の設定」35.7%、「車両のバリアフリー化や小型化」22.6%、「市内全域における鉄道、バス等の乗継ぎのしやすさ」22.6%

施策	割合 (%)
増便や運行時間帯の拡大	47.6
発車時刻を一定にするなど、分かりやすいダイヤの設定	15.5
行きたい場所を通るバス路線の設定	35.7
車両のバリアフリー化や小型化	22.6
市内全域における鉄道、路線バス(宮交バス)、市民バス等の乗継ぎのしやすさ	22.6
1回の利用でワンコイン、共通乗車券等のわかりやすい運賃の設定	16.7
鉄道や路線バス(宮交バス)、市民バスにおけるICカードの導入	7.1
すべての交通手段のルートや時刻表等が記載されたマップ等の配布	10.7
パソコン・スマートフォン等への時刻表、乗継情報等の提供	4.8
観光施設や商業施設等と連携した公共交通割引チケット等の発行	7.1
公共交通に関する意識向上を育むための懇談会や勉強会の開催	4.8
バスの試乗会やお試しツアー等の開催	7.1
駅やバス停の待合環境(ベンチ、屋根の設置等)の改善	17.9
駅やバス停の分かりやすい運行情報案内(時刻表、系統図等)	10.7
その他	0.0

課題

- 高齢化の進展に伴う高齢者等の移手段の確保
- 市街地エリア・南部エリア・東郷エリアをつなぐ拠点幹線軸の維持・強化
- 地域の実情に応じた新たな公共交通サービスの構築
- 各公共交通機関の相互連携による利便性の向上（MaaSの推進）
- 交流人口の拡大に向けた観光二次交通等の整備

地区概況及び公共交通の現状・ニーズ（東郷エリア）

地区概況

○市の西部に位置し、地区人口 2,769 人、総人口の 4.8%を占める。（令和 5 年 1 月現住人口）

○年少人口・生産年齢人口は減少し、老年人口は増加しており、令和 3 年度の日向市全体の高齢化率は約 33.5%と、今後も高齢化が進行することがうかがえる。（令和 3 年 10 月住民基本台帳）

○人口減少・少子高齢化と共に世帯数も減少傾向にある。高齢者独居世帯（65 歳以上）は、市全体で 7,607 人が該当し、うち東郷エリアは 701 人である。（令和 2 年国勢調査）

○世帯で見た自家用車所有率は 73.9%（自分専用 60.9%）であり、自家用車を持っていない方は 23.9%である。（市民アンケート調査）

■東郷エリアの自家用車所有状況

自家用車所有状況	割合
自分専用の自動車がある	60.9%
家族共有の自動車がある	13.0%
持っていない	23.9%
無回答	2.2%

都市機能立地状況

◀主な施設▶

- 商業施設・・・道の駅とうごう、いき東郷ショッピングセンター
- 医療施設・・・日向市立東郷診療所、青柳内科循環器科
- 公共施設・・・山陰郵便局、東郷駐在所、東郷総合支所、坪谷駐在所、坪谷郵便局
- 教育施設・・・東郷学園、東郷学園若竹分校、坪谷小学校

公共交通

○路線バス ○乗合バスとうごう

主な行き先

順位	商業施設		医療施設	
	施設名	回数	施設名	回数
1	アタックス	5	東郷診療所	7
2	マルイチ いき東郷ショッピングセンター	4	千代田病院	4
3	イオン A コープ	2	青柳内科循環器科	3
			瀧井病院	2

市内公共交通の利用状況

路線バス

○路線バス利用率：東郷エリア 13.1%（市内総数 8.3%）

市民バス

○市民バス利用率：乗合バスとうごう 4.3%

○市民バス利用者の頻度：「月に1日以上」50.0%、「年に数回程度」50.0%

取り組む方向性

○「自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき」50.0%

- 大半の人が自家用車で移動できるので、公共交通は必要ないとする
- 沿線の人口の推移や利用状況により、路線の廃止や運行本数の減便を行い、財政負担を減らしていくべき
- 現状と同程度の財政負担の中で、運行の効率化等やれることに取り組み、可能な限り公共交通の維持に努めるべき
- 自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき
- その他
- 無回答

効果的な利用促進策

○「行きたい場所を通るバス路線の設定」41.3%、「増便や運行時間帯の拡大」28.3%、「市内全域における鉄道、バス等の乗継ぎのしやすさ」23.9%

課題

- 高齢化の進展に伴う高齢者等の移手段の確保
- 市街地エリア・南部エリア・東郷エリアをつなぐ拠点幹線軸の維持・強化
- 地域の実情に応じた新たな公共交通サービスの構築
- 各公共交通機関の相互連携による利便性の向上（MaaSの推進）
- 交流人口の拡大に向けた観光二次交通等の整備